

幼児教育・学校教育に携わるすべてのみなさんへ

育ちと学びをつなぐ

スタートカリキュラムの視点を、すべての子どもの学習改善へ



令和3年度4月20日と5月11日に、市内2校でスタートカリキュラムの授業研究会がありました。2校の実践から、スタートカリキュラムだけでなく、学校全体のカリキュラム・マネジメントや全学年における児童の学習改善、園の保育・教育のレベルアップのヒントになる提案がありましたので、一部を紹介します。

「コロナ禍でのスタートカリキュラムの充実に向けて」～鶴見小学校の提案から～



「額と額を突き合わせて、遊びに没頭する」そんな学び方ができなくなって1年が過ぎました。しかし、コロナ禍でも、目指す子どもの像の実現に向けて、学校職員が知恵を絞った工夫の中から4点を紹介します。

工夫1 教室後ろのドアを2枚取り外したオープンな環境

メリット：・密閉を避け、十分な換気ができる。

- ・園の環境に似ていて、子どもが安心感を持てる。
- ・廊下からの見通しがよく、多くの職員が子どもの様子を共有できる。



工夫2 朝の準備や、学習の流れについて掲示物を活用した環境構成と視覚支援

メリット：・担任への質問やロッカー前に同じタイミングで集まるような「密集」を避けられる。

- ・視覚支援だけでは不十分な児童に、職員の支援をゆったりと行うことができる。



工夫3 ICT 機器を活用した「なかよしタイム」の充実

- メリット：・ダンスなどでは、職員のモデルを事前に撮影したものを TV に映し、子どもにとっての楽しみや分かりやすさを生み出すことができる。
- ・読み聞かせでは、本のページをタブレット等で TV に拡大して投影することで、教室後方の児童も挿絵を楽しむことができる。また、読み手は、児童に特に注目してほしいところを拡大して示すことで、効果的な読み聞かせにつなげられる。



工夫4 没頭して遊びこむ時間の確保

- メリット：・個々が広いスペースで自分の好きな遊びに没頭することで、結果的に密集が避けられる。(教室3部屋、教室2部屋分のフリースペース、廊下)
- ・外遊びの時間を確保することで、「手を洗う必要性」を児童が実感できる。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、放課後は外出を控えている児童も、学校で日光を浴び、運動することで、食事や睡眠のリズムを作ることができる。



子どもの気づきや自覚を促す発問の工夫～浜小学校の提案と実際の授業における発問から～

浜小学校では、学校教育目標の実現に向けて、スタートカリキュラムを重要視しています。取組の中から、子どもが主体的に向かう学びや遊びの中に、子どもの育ちを見つけていったり引き出したりすることを大切にしています。「発問」の工夫について、提案資料や実際の授業の中から、いくつかを紹介します。

発問1 「園ではどうしていたの？」

意図：これまで、どのように育ってきたかという視点で子どもをみどり子どもがもっている力を引き出せるようにする。

発問2 「どうしたらいいと思う?」「どっちがいいと思う?」

意図：自分で考え、判断して行動できたこと、選択できたことを自信にする。



発問3 「どうしてそう思うの?」

意図：子どもの思いに寄り添い、個々の子どもの生活や、背景、エピソードを大切にし、その子どもの持ち味を引き出す。



発問4 「〇〇さんの?や!を感じた人はいますか?見つけた人はいますか?」

意図：人・もの・ことに向かう子どもの意欲や思いを協働的に高めていき、学び合える集団作りを目指す。

ZOOM 研修会参加者の振り返りから

- ・幼児期からの学びが、小学校に引き継がれていると感じました。普段小学校でのカリキュラムのお話を聞く機会は少ないので、貴重な時間になりました。
- ・年長児を園から見送る際に、園の教育改善が正しい方向に向かっているのか、不安に思うときがありますが、小学校側での取り組みを知ることができ安心しました。



「園の育ちが小学校で活きているだろうか」「園の教育はこれでよいか」自問自答をしている園の先生方にとって、園での保育・教育を振り返ったり、卒園児の育ちに思いをはせたりする機会になったようです。

